スマートファクトリー Japan 2019

2019 防災産業展 in 東京

結果報告書

会 期：2019.6/5(水)▶7(金) 10:00〜17:00

会 場：東京ビッグサイト 青海展示棟

主 催：日刊工業新聞社

関係者各位

開　催　御　礼

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は「スマートファクトリーJapan2019」「2019 防災産業展 in 東京」の開催にあたり、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

おかげさまで 40,000 名を超える来場者をお迎えし、3日間の会期を盛況のうちに終了することができました。これもひとえに出展者をはじめ、ご後援いただきました関係官庁並びに産業諸団体のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今後とも関係各位の一層のご支援ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

日刊工業新聞社

Ⅰ 出展規模（全展合計）

236社・団体／ 431小間　※主催者企画コーナー含む

- **『スマートファクトリー Japan』…… 125社・団体／ 263小間**
- **『防災産業展 in東京』 …… 111社・団体／ 168小間**

Ⅰ 両展合計来場者数

日　付	天　候	人　数
6月 5日（水）	晴れ	13,172名
6月 6日（木）	晴れ	14,742名
6月 7日（金）	曇りのち雨	15,255名
合　計		**43,169名**

開催概要

共通事項
I 会　　期　2019年6月5日(水)～7日(金)　　10:00～17:00
I 会　　場　東京ビッグサイト　青海展示棟Aホール
I 入 場 料　1,000円（事前登録者、招待券持参者・中学生以下は無料）

■ 名　　称　**スマートファクトリー Japan 2019**

■ 主　　催　日刊工業新聞社

■ 特別協力　インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（IVI）、自動化推進協会、日本物流システム機器協会

■ 後　　援　内閣府、総務省、経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）

■ 協　　賛　日本機械工業連合会、日本ロボット工業会、日本鍛圧機械工業会、日本精密機械工業会、日本工作機械工業会、日本食品機械工業会、日本包装機械工業会、日本自動車部品工業会、日本産業機械工業会、日本電気制御機器工業会、東京工業団体連合会、人工知能学会

■ 特別企画　ブロックチェーンで変わる生産現場ゾーン（協力：ブロックチェーン推進協会）
日本物流システム機器協会～ IoT ＆マテハンゾーン～（主催：日本物流システム機器協会）

■ 名　　称　**2019 防災産業展 in 東京**

■ 主　　催　日刊工業新聞社

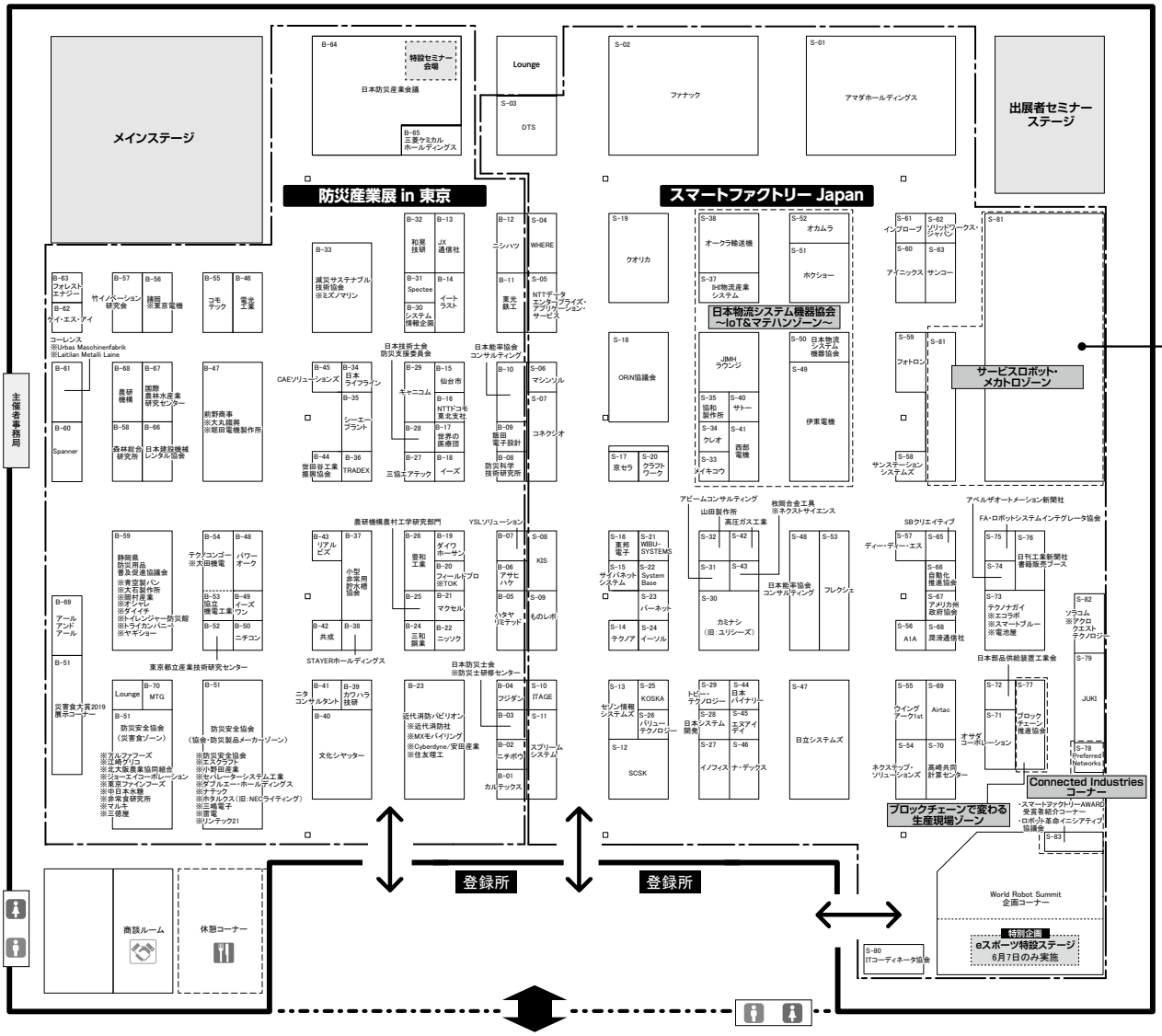
■ 共　　催　日本防災産業会議

■ 後　　援　内閣府政策統括官（防災担当）、復興庁、総務省、経済産業省、国土交通省、消防庁

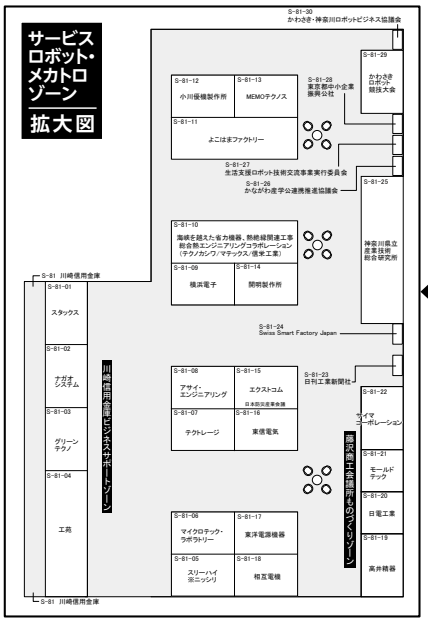
■ 協　　賛　全国消防機器協会、全国避難設備工業会、日本建築防災協会、日本火災報知機工業会、日本消火器工業会、日本消防ポンプ協会、日本消防放水器具工業会、日本防炎協会、日本保安用品協会、防災科学技術研究所、日本防火・危機管理促進協会、日本免震構造協会、日本防災士会、日本内燃力発電設備協会、日本技術士会

（※法人格略、順不同）

会場レイアウト


メインステージ
特設セミナー会場
日本防災産業会議
Lounge
DTS
ファナック
アマダホールディングス
出展者セミナーステージ
防災産業展 in 東京
スマートファクトリー Japan
日本物流システム機器協会〜IoT&マテハンゾーン〜
サービスロボット・メカトロゾーン
主催者事務局
商談ルーム
休憩コーナー
登録所
登録所
ブロックチェーンで変わる生産現場ゾーン
Connected Industries コーナー
World Robot Summit 企画コーナー
特別企画
eスポーツ特設ステージ
6月7日のみ実施

SHOP FLOOR 製造現場


サービスロボット・メカトロゾーン 拡大図

出展者リスト（50音順）

※は共同出展者

スマートファクトリー Japan

S-80 IT コーディネータ協会
S-10 ITAGE
S-60 アイニックス
S-31 アビームコンサルティング
S-74 アベルザ オートメーション新聞社
S-01 アマダホールディングス
S-67 アメリカ州政府協会（ASOA）
※アイオワ州、ミシシッピ州、ノースカロライナ州、ペンシルベニア州、テネシー州
S-24 イーソル
S-27 イノフィス
S-61 インプローブ
S-21 WIBU-SYSTEMS
S-55 ウイングアーク1ｓｔ
S-56 A1A
S-69 Airtac
S-12 SCSK
S-65 SB クリエイティブ
S-45 エヌアイデイ
S-05 NTT データエンタープライズ・アプリケーション・サービス
S-75 FA・ロボットシステムインテグレータ協会
S-71 オサダコーポレーション
S-18 ORiN 協議会
S-30 カミナシ（旧：ユリシーズ）
S-17 京セラ
S-19 クオリカ
S-20 クラフトワーク
S-08 KIS
S-42 高圧ガス工業
S-25 KOSKA
S-07 コネクシオ
S-15 サイバネットシステム
S-63 サンコー
S-58 サンステーションシステムズ
S-22 SystemBase
S-66 自動化推進協会
S-79 JUKI
S-68 潤滑通信社
S-11 スプリームシステム
S-13 セゾン情報システムズ
S-82 ソラコム
※アクロクエストテクノロジー
S-62 ソリッドワークス・ジャパン
S-70 高崎共同計算センター
S-03 DTS
S-57 ディー・ディー・エス
S-14 テクノア
S-73 テクノナガイ
※エコラボ
※スマートブルー
※電池屋
S-16 東邦電子
S-29 トビー・テクノロジー
S-46 ナ・デックス
S-76 日刊工業新聞社　書籍販売ブース
S-28 日本システム開発
S-48 日本能率協会コンサルティング
S-44 日本バイナリー
S-72 日本部品供給装置工業会
S-54 ネクステップ・ソリューションズ
S-23 バーネット
S-26 バリューテクノロジー
S-47 日立システムズ
S-43 枚岡合金工具
※ネクストサイエンス
S-02 ファナック
S-59 フォトロン
S-53 フレクシェ
S-04 WHERE
S-06 マシンソル
S-09 ものレボ
S-32 山田製作所
- World Robot Summit

ブロックチェーンで変わる生産現場ゾーン

S-77 ブロックチェーン推進協会（BCCC）

サービスロボット・メカトロゾーン

S-81-08 アサイ・エンジニアリング
S-81-15 エクストコム
S-81-12 小川優機製作所
S-81-10 海峡を越えた省力機器、熱絶縁関連工事
総合熱エンジニアリングコラボレーション
※信栄工業
※テクノカシワ
※マテックス
S-81-14 開明製作所
S-81-25 神奈川県立産業技術総合研究所
S-81-26 かながわ産学公連携推進協議会
S-81-30 かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会
S-81 川崎信用金庫
S-81-29 かわさきロボット競技大会
S-81-03 グリーンテクノ
S-81-04 工苑
S-81-24 Swiss Smart Factory Japan
S-81-01 スタックス
S-81-05 スリーハイ
※ニッシリ
S-81-27 生活支援ロボット技術交流事業実行委員会
S-81-18 相互電機
S-81-07 テクトレージ
S-81-28 東京都中小企業振興公社
S-81-16 東信電気
S-81-17 東洋電源機器
S-81-02 ナガオシステム
- 藤沢商工会議所 工業部会
※サイマコーポレーション
S-81-22 ※高井精器
S-81-19 ※日電工業
S-81-20 ※モールドテック
S-81-21 マイクロテック・ラボラトリー
S-81-06 MEMO テクノス
S-81-13 横浜電子（横浜 IoT 協同組合会員）
S-81-09 よこはまファクトリー
S-81-11

日本物流システム機器協会 ～ IoT& マテハンゾーン～

S-37 IHI 物流産業システム
S-49 伊東電機
S-38 オークラ輸送機
S-52 オカムラ
S-35 協和製作所
S-34 クレオ
S-40 サトー
S-41 西部電機
S-50 日本物流システム機器協会
S-51 ホクショー
S-33 メイキコウ

Connected Industries コーナー

S-83 スマートファクトリー AWARD2019
受賞者紹介コーナー
・光洋陶器
・デンソー
・パナソニック ライフソリューションズ社 新潟工場
・HILLTOP
・ワールド山内
S-78 Preferred Networks
S-83 ロボット革命イニシアティブ協議会

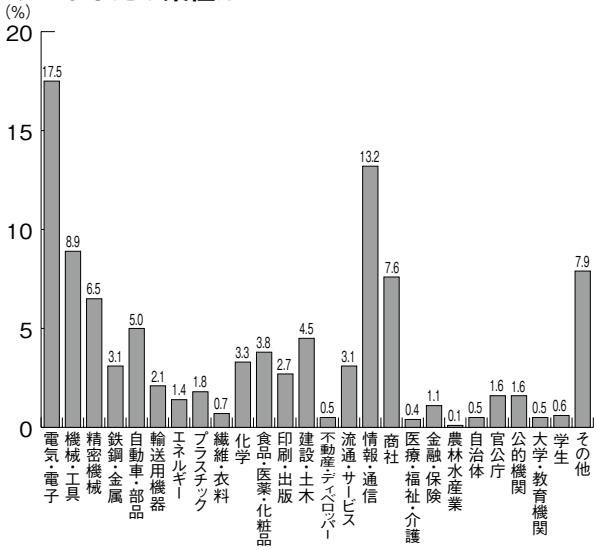
防災産業展 in 東京

B-69 アールアンドアール
B-06 アサヒハケ
B-18 イーズ
B-49 イーズワン
B-09 飯田電子設計
B-14 イートラスト
B-16 NTT ドコモ東北支社
B-70 MTG
B-01 カルテックス
B-39 カワハラ技研
B-29 キャニコム
B-42 共成
B-53 協立機電工業
B-23 近代消防パビリオン
※MXモバイリング
※近代消防社
※ Cyberdyne ／安田産業
※住友理工
B-62 ケイ・エス・アイ
B-33 減災サステナブル技術協会
※ミズノマリン
B-61 コーレンス
※ Urbas Maschinenfabrik
※ Laitilan Metalli Laine
B-37 小型非常用貯水槽協会
B-67 国際農林水産業研究センター
B-55 コモテック
B-27 三協エアテック
B-24 三和鋼業
B-45 CAE ソリューションズ
B-35 シーエープラント
B-13 JX 通信社
B-59 静岡県防災用品普及促進協議会
※青空製パン
※大石製作所
※岡村産業
※オシャレ
※ダイイチ
※トイレンジャー防災館
※トライカンパニー
※ヤギショー
B-30 システム情報企画
B-58 森林研究・整備機構 森林総合研究所
B-38 STAYER ホールディングス
B-60 Spanner
B-31 Spectee
B-17 世界の医療団
B-44 世田谷工業振興協会
B-15 仙台市
B-19 ダイワホーサン
B-57 竹イノベーション研究会
B-54 テクノコンゴー
※大田機電
B-46 電光工業
B-52 東京都立産業技術研究センター
B-11 東光鉄工
B-36 TRADEX
B-12 ニシハツ
B-41 ニタコンサルタント
B-50 ニチコン
B-02 ニチボウ
B-22 ニッソク
B-28 日本技術士会防災支援委員会
B-66 日本建設機械レンタル協会
B-10 日本能率協会コンサルティング
B-64 日本防災産業会議
B-03 日本防災士会
※防災士研修センター
B-34 日本ライフライン
B-68 農業・食品産業技術総合研究機構
B-25 農研機構 農村工学研究部門
B-05 ハタヤリミテッド
B-48 パワーオーク
B-20 フィールドプロ
※ TOK
B-63 フォレストエナジー
B-04 フジダン
B-40 文化シヤッター
B-51 防災安全協会
※アルファフーズ
※江崎グリコ
※エスクラフト
※小野田産業
※北大阪農業協同組合
※ショーエイコーポレーション
※セパレーターシステム工業
※ダブルエー・ホールディングス
※東京ファインフーズ
※中日本氷糖
※ナテック
※非常食研究所
※ホタルクス（旧：NEC ライティング）
※マルキ
※三嶋電子
※三徳屋
※雷電
※リンテック 21
B-08 防災科学技術研究所
B-26 豊和工業
B-47 前野商事
※大丸鐵興
※堀田電機製作所
B-21 マクセル
B-65 三菱ケミカルホールディングス
B-56 諸岡
※東京電機
B-43 リアルビズ
B-07 YSL ソリューション
B-32 和晃技研

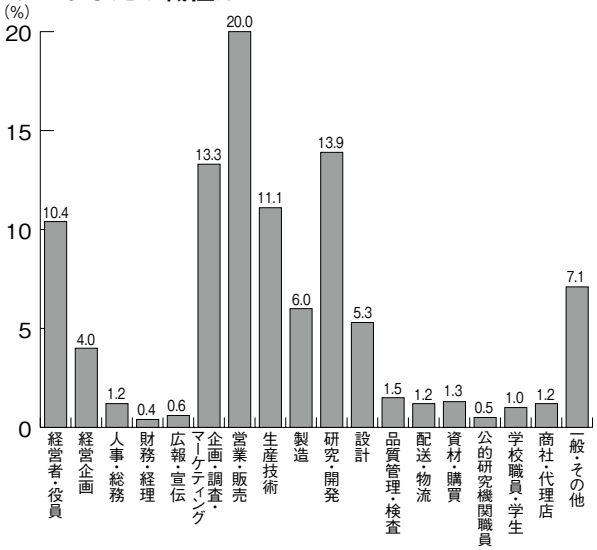
「スマートファクトリー Japan 2019」来場者アンケート　結果報告

（回答数 26,333名）

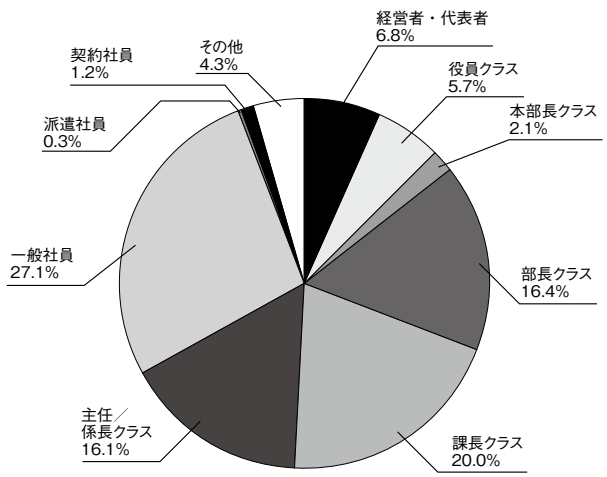
Q1. あなたの業種は?



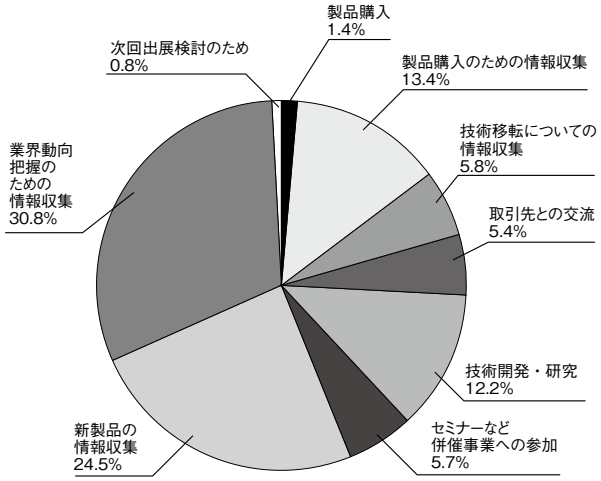
Q2. あなたの職種は?



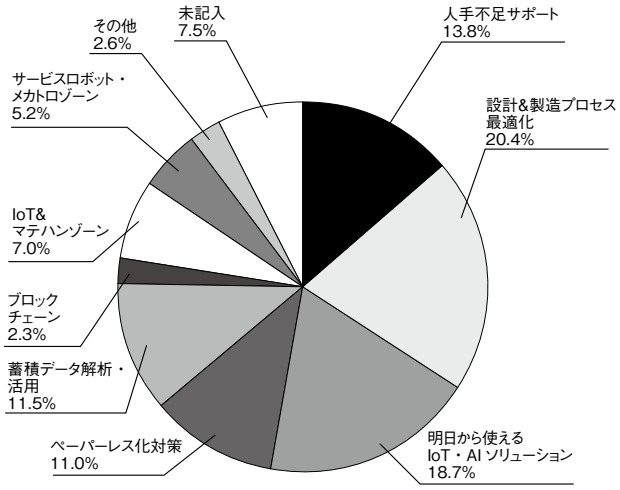
Q3. あなたの役職は?



Q4. 来場目的は?　※複数回答可

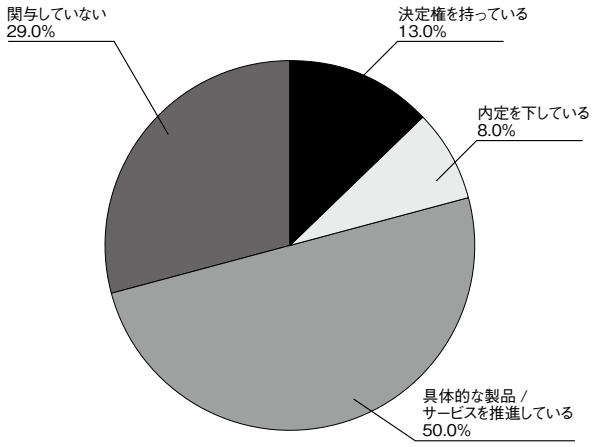


Q5. 興味を持った分野は?　※複数回答可



Q6. 製品及びサービスの購入・導入に関して、どのように関与されてますか?

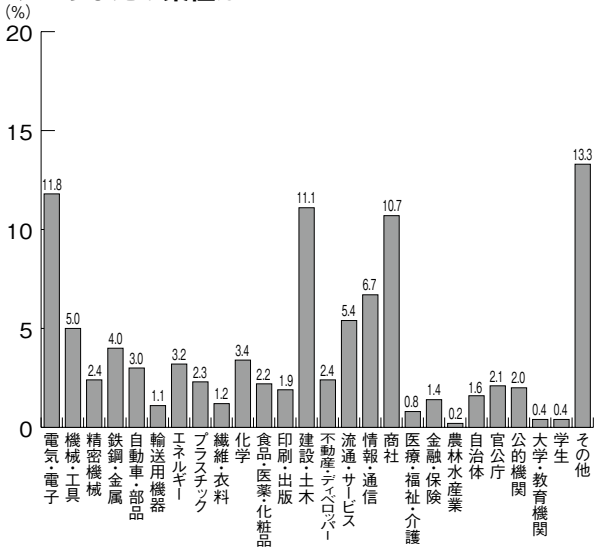
（両展共通／回答数 300名）



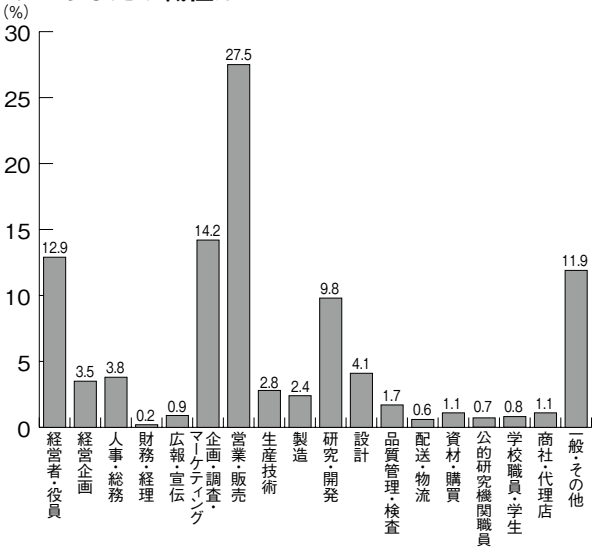
「2019 防災産業展 in 東京」来場者アンケート　結果報告

（回答数 16,836名）

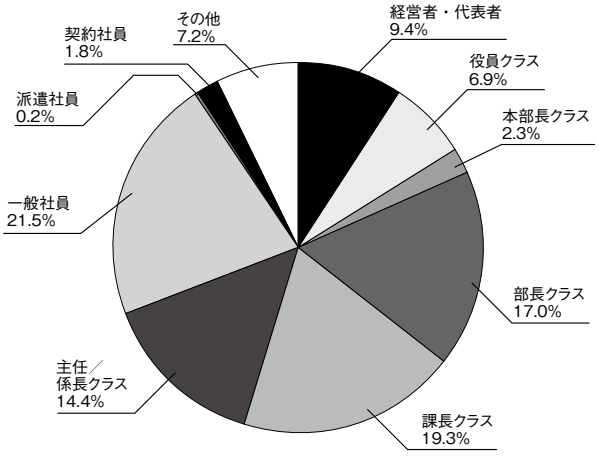
Q1. あなたの業種は?



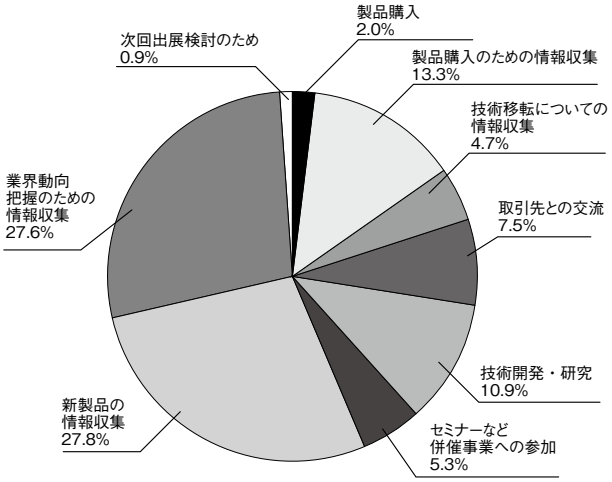
Q2. あなたの職種は?



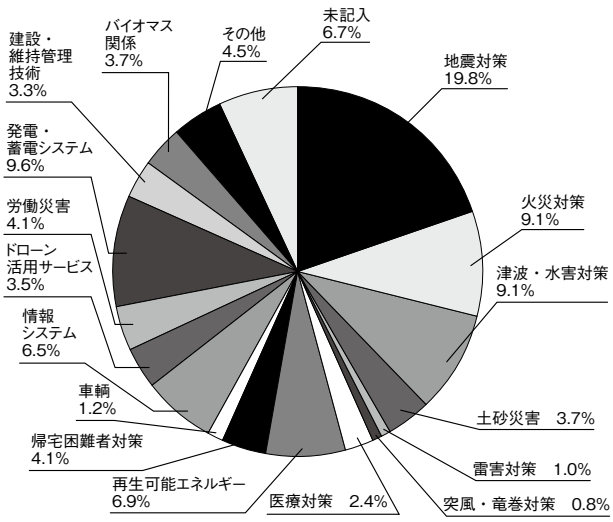
Q3. あなたの役職は?



Q4. 来場目的は?　※複数回答可

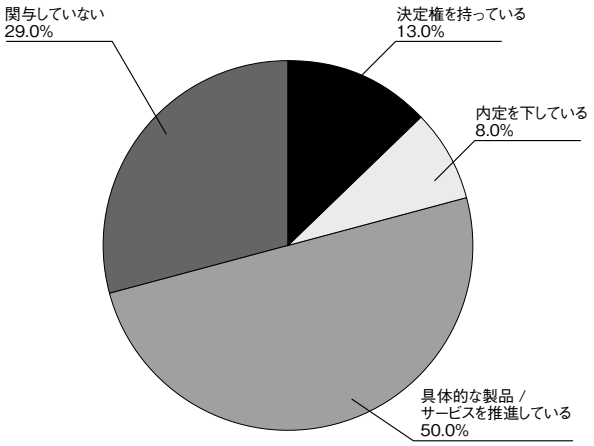


Q5. 興味を持った分野は?　※複数回答可



Q6. 製品及びサービスの購入・導入に関して、どのように関与されてますか?

（両展共通／回答数 300名）



開会式・テープカット

日　　時 6月5日(水) 9：30 ～ 9：50
場　　所 東京ビッグサイト 青海展示棟 A ホール内

式次第

主催者挨拶	日刊工業新聞社　代表取締役社長	井水 治博
来賓祝辞	経済産業省　製造産業局　審議官	大内 聡 氏

テープカット出席者（上記以外の方）

来　　賓	総務省　国際戦略局 通信規格課長	田沼 知行 氏
来　　賓	国土交通省　関東地方整備局　統括防災官	吉見 精太郎 氏
協　　賛	防災科学技術研究所　理事長	林　春男 氏
共 催 者	日本防災産業会議　会長	相澤 益男 氏

来賓祝辞

テープカット

内覧会

併催企画

スマートファクトリー AWARD2019 表彰式

日　　時 6月5日(水) 15：10 ～ 15：30
受 賞 者 光洋陶器(岐阜県土岐市)
デンソー(愛知県刈谷市)
パナソニック ライフソリューションズ社
　ライティング事業部　新潟工場(新潟県燕市)
HILLTOP(京都府宇治市)
ワールド山内(北海道北広島市)

参 加 者 数　約300名

災害食大賞 2019 表彰式

日　　時 6月6日(木) 11：30 ～ 12：20
参 加 者 数 約70名
主　　催 日本防災安全協会
後　　援 日本食育学会、日本防災産業会議、日刊工業新聞社

beyond 2020

併催事業

メインステージプログラム

基調講演『「生きる、を支える科学技術」を目指す防災科研の試み』

〔主催: 日刊工業新聞社、日本防災産業会議／協力: モノづくり日本会議〕

日 時　6 月 5 日(水) 11：00 ～ 12：00　　**参 加 者 数**　約170名

講 師

防災科学技術研究所　理事長　　林 春男 氏

講演『リコーグループにおける企業防災・危機管理のあり方』

日 時　6 月 5 日(水) 13：00 ～ 14：00　　**参 加 者 数**　約160名

講 師

リコー　リスクマネジメント室　シニアマネジメント　　荻原 毅 氏

Connected Industries ステージ

〔協力: モノづくり日本会議〕

日 時　6 月 5 日(水) 14：30 ～ 16：35　　**参 加 者 数**　約350名

基調講演　『製造業を巡る環境変化、課題と対応の方向性』

講 師

経済産業省　製造産業局長　　井上 宏司 氏

スマートファクトリー AWARD2019 表彰式

特別講演①　『深層学習がもたらす製造業のスマート化』

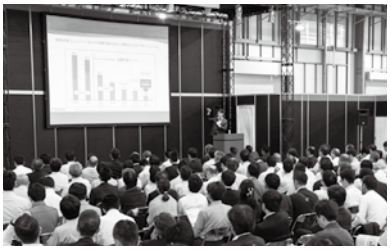
講 師

Preferred Networks　執行役員 研究開発担当 VP　　比戸 将平 氏

特別講演②『1 時間で始める Smart Factory ～小さな投資 大きな進化 生産性 IoT 進化論～』

講 師

i Smart Technologies　代表取締役 CEO　　木村 哲也 氏



▌防災安全協会×日本防災産業会議ステージ

〔主催: 防災安全協会、日本防災産業会議／協力: モノづくり日本会議〕

日 時　6 月 6 日(木) 10：20 ～ 12：20　　**参 加 者 数**　約130名

▌講演①『2020 年における日本の食文化発信について』

講 師

内閣官房　参事官　　勝野 美江 氏

▌講演②『訪日外国人が驚く災害食とはなんでしょう』

講 師

甲南女子大学名誉教授、防災安全協会顧問、
NPOボランティアネットワーク NANDA理事　　奥田 和子 氏

▌災害食大賞 2019 表彰式

▌インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブが目指す日本版ものづくり改革 －「ゆるやかな標準」でつなげる第４次産業革命への挑戦－

〔主催: インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ〕

日 時　6 月 6 日(木) 13：00 ～ 15：30　　**参 加 者 数**　約330名

▌IVI 概要説明、業務シナリオ説明

IVI代表幹事／ブラザー工業　　西村 栄昭 氏

▌業務シナリオ発表

『部品輸送トラックの位置把握と時間実績収集による最適化』

マツダ　　奥屋 太志 氏

『ロボット設備の運用フェーズで簡易化・効率化』

パナソニック　　西村 嘉徳 氏

『センサデータ活用による誰でも出来予知保全と品質管理』

ミスズ工業　　吉川 浩史 氏

『発展的かつ継続なデータの収集と分析』

CKD　　丹羽 孝太 氏

▌先進研究分科会発表

『経営と現場をつなぐ KPI 研究分科会発表』

東芝　　杉山 尚美 氏

『5G 先進活用研究分科会発表』

日立産機システム　　苗村 万紀子 氏

『センサーデータ活用技術研究分科会発表』

東芝　　松岡 康男 氏

『オープン & クローズ戦略研究分科会発表』

日立製作所　　堀水 修 氏

クロージング

IVI理事長／法政大学教授　　西岡 靖之 氏

閉会の挨拶

IVI代表幹事／ブラザー工業　　西村 栄昭 氏

『製造業におけるブロックチェーン適用と可能性』

日 時　6 月 6 日(木) 15：50 ～ 16：35　　**参 加 者 数**　約220名

講 師

ブロックチェーン推進協会　代表理事　　平野 洋一郎 氏

地方版 IoT 推進ラボ特別企画　『地域から世界へ！ IoT･AI 時代に対応した新しい価値創出』

〔主催: 地方版 IoT推進ラボ、日本防災産業会議、日刊工業新聞社〕

日 時　6 月 7 日(金) 11：00 ～ 12：30　　**参 加 者 数**　約250名

パネラー

美波 IoT推進ラボ　美波町長　　影治 信良 氏

宇部市長　　久保田 后子 氏

経済産業省　商務情報政策局　情報技術利用促進課　企画官　　大西 啓仁 氏

影治 信良 氏

久保田 后子 氏

モデレータ

東京大学大学院　情報学環　副学環長　教授　　越塚 登 氏

大西 啓仁 氏

越塚 登 氏

IoT・AI Innovation フォーラム

〔協力: クラウド利用促進機構〕

講演①『AI IoT 時代のものづくり革新』

日 時　6 月 7 日(金) 13：00 ～ 13：45　　**参 加 者 数**　約330名

講 師

日本アイ･ビー･エム　グローバル･ビジネス･サービス事業本部

IoT & ビジネストランスフォーメーション パートナー　　鈴村 敏央 氏

講演②『ヒトではなく、電子を走らせろ！デジタルがもたらす「真の産業革命」』

日 時　6 月 7 日(金) 14：15 ～ 15：00　　**参 加 者 数**　約270名

講 師

SAPジャパン　インダストリーバリューエンジニアリング統括本部

IoT/IR4 ディレクター　　村田 聡一郎 氏

『社員一人ひとりが災害に強い会社を目指して』

日 時　6 月 7 日(金) 15：30 ～ 16：30　　**参 加 者 数**　約130名

講 師

ディスコ　サポート本部 総務部 BCM推進チームリーダー　　渋谷 真弘 氏

出展者セミナステージプログラム

▌『スマートファクトリーを実現する改革シナリオと実践事例』

〔主催: 日本能率協会コンサルティング、日刊工業新聞社〕

日 時 6月5日(水) 10：10 ～ 11：10　　**参 加 者 数** 約130名

講 師

日本能率協会コンサルティング　デジタルイノベーション事業本部　執行役員
シニア･コンサルタント　　松本 賢治 氏

JUKI　大田原工場　製造部（業務改革チーム）　　本多 勝美 氏

▌『スイスイノベーション・スイススマートファクトリー』

〔主催: Swiss Smart Factory Japan／協力: かわさき･神奈川ロボットビジネス協議会、スイス外国企業誘致局〕

日 時 6月5日(水) 14：30 ～ 15：10　　**参 加 者 数** 約70名

講演①『スイス・事業拠点設立のメリットについて』

講 師

スイス大使館　外国企業誘致局　上席担当官　　松田 俊宏 氏

講演②『スイスイノベーション・スイススマートファクトリーの取り組みについて』

講 師

Swiss Smart Factory Japan　代表　　小山 勇 氏

▌かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会／グローバルビジネスセミナー『強い中小企業の海外展開向けプレゼンテーション』

〔主催: かわさき･神奈川ロボットビジネス協議会〕

日 時 6月5日(水) 15：30 ～ 16：10　　**参 加 者 数** 約60名

登 壇 者

サイマコーポレーション、東洋電源機器、スリーハイ、小川優機製作所

▌『Bosch IoT、データ収集のその先』

日 時 6月6日(木) 15：30 ～ 16：10　　**参 加 者 数** 約90名

講 師

NTTデータエンタープライズ･アプリケーション･サービス　代表取締役社長
青木 秀行 氏

▌『Bluetooth 技術が産業用 IoT にもたらす可能性』

日 時 6月7日(金) 15：30 ～ 16：20　　**参 加 者 数** 約110名

講 師

Bluetooth SIG　アジア太平洋地域　デベロッパー リレーションズ マネージャー
カイ・レン 氏

出展者セミナー

会場 出展者セミナーステージ

6月5日（水）		
11：30 ～ 12：10	『AI 防災の最前線！ AI はどのように防災・減災に活用できるか』	Spectee
12：30 ～ 13：10	『仙台市が目指す「エネルギー自律型のまちづくり」の取り組みについて』	仙台市
13：30 ～ 14：10	『新エネルギー産業推進セミナー～持続可能な社会実現に向けて～』	日本能率協会コンサルティング
6月6日（木）		
10：30 ～ 11：10	『AI 防災の最前線！ AI はどのように防災・減災に活用できるか』	Spectee
11：30 ～ 13：10	バイオマスエキスポフォーラム 『バイオマス熱電エネルギーが先導する地域創生＆防災まちづくり』	
	基調講演 『加速するバイオマス産業都市～環境にやさしく災害に強いまちづくり」』	農林水産省 食料産業局バイオマス循環資源課
	『Syncraft と Volter で実現する地域熱電併給』	フォレストエナジー、ボルタージャパン
	『進化する Spanner 小型木質バイオマス熱電併給プラント 電気出力 45kW ～ 2000kW』	Spanner
	『信頼の実績！ URBAS 小規模木質チップガス化熱電併給システム』	コーレンス
13：30 ～ 14：10	『AI で「手遅れ」を防ぐ！ 10 の実例で学ぶ災害時の情報収集』	JX 通信社
14：30 ～ 15：10	『製造現場を金額で見える化～時間もお金もかけない原価管理～』	KOSKA
6月7日（金）		
10：30 ～ 11：10	『工場からバリューチェーン全体へつなげる IoT・AI 事例』	アビームコンサルティング
11：30 ～ 12：10	『製造現場を金額で見える化～時間もお金もかけない原価管理～』	KOSKA
12：30 ～ 13：10	『減災サステナブル学による挑戦と減災サステナブル技術の開発』	減災サステナブル技術協会
13：30 ～ 14：10	『現場の部品予備品・治工具適正化による働き方改革と生産効率化へ』	日立システムズ
14：30 ～ 15：10	『工場でペーパーレス化を実現する上での３つの課題と解決法』	カミナシ（旧：ユリシーズ）

日本防災産業会議会員ワークショップ

会場 B-64：日本防災産業会議ブース内

6月5日（水）		
11：20 ～ 11：50	『地震に対する対策技術の紹介』	THK
13：20 ～ 13：50	『災害による健康二次被害を防ぎたい！ KAITEKI 防災・減災（レジリエンス）製品』	三菱ケミカルホールディングス
6月7日（金）		
13：20 ～ 13：50	『ゲリラ豪雨等による浸水被害対策』	文化シヤッター
14：20 ～ 14：50	『早めの洪水対応をサポート！ ～リアルタイム河川水位予測「RiverCast」のご紹介～』	構造計画研究所

主な広報・宣伝

項目	内容	実施期間
web 関係	来場募集ホームページ	2019 年 4 月初旬～
	バナー掲載 （関係機関、日刊工業新聞社公式サイトなど）	
日刊工業新聞	関連記事	2018 年 4 月～
	広告	2018 年 8 月～
	紙上プレビュー	2018 年 5 月 22 日～ 28 日
	企画特集	2019 年 6 月 3 日
その他パブリシティー （新聞、web、雑誌）	潤滑経済	2019 年 4 月号、5 月号
	工場管理	2019 年 6 月号
	ジュンツウネット 21：バナー広告	2019 年 5 月 8 日～ 6 月 7 日
	オートメーション新聞：バナー広告	2019 年 4 月 12 日～ 6 月 7 日
	オートメーション新聞：新聞広告	2019 年 5 月 22 日
	電子デバイス産業新聞：新聞広告	2019 年 5 月 9 日、23 日
	都政新報	2019 年 5 月 14 日
	近代消防	2019 年 5 月号、6 月号
	メトロガイド	2019 年 6 月号
ニュースリリース	新聞社、TV 局、その他各種媒体へ配信	2019 年 5 月中旬～
招待券	出展者に無料配布（封筒とセット）：約 15 万部	2019 年 4 月中旬～
	主催者送付分：約 20 万部 ・後援、協賛団体 ・弊社主催の展示会、セミナー来場者 ・弊社発行「新製品情報」購読者 ・日刊工業新聞社支社・支局 など	2019 年 5 月初旬～
E-mail	弊社保有顧客リスト （展示会来場者・セミナー受講者等）へ発信	2019 年 4 月～
	電子機器トータルソリューション展メルマガ	2019 年 4 月～
	ジュンツウネット	2019 年 4 月 22 日、5 月 14 日、6 月 4 日
	BIT 通信	2019 年 4 月 23 日、5 月 16 日、22 日、6 月 3 日
	バイオマスフォーラム	2019 年 5 月 27 日、6 月 3 日、6 月 5 日
	バイオマスエキスポ	2019 年 5 月 30 日、6 月 4 日、6 月 6 日
	アペルザ	2019 年 5 月 30 日

プレス来場者一覧

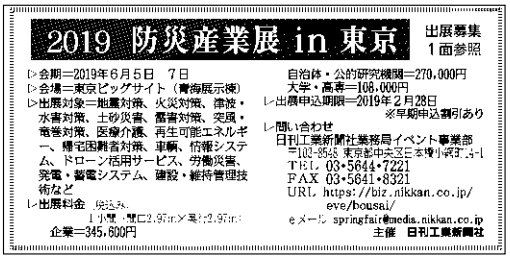
アールジーン
アイティメディア
朝日新聞社
アルジャジーラ
アルム出版社
インプレス
ARC ジャパンオフィス
NHK　国際放送局
オーム社
化学工業日報
家具週報社
加工技術研究会
ガスレビュー
金型新聞社／日本産機新聞社
金物総合研究所
ガラス新聞社
環境建築新聞
Gicho ビジネスコミュニケーションズ
キュービックス
芸文社
建材市場創研
建設工業調査会
建築資料研究社
建通新聞社
工業技術新聞社
公共投資ジャーナル社
コーティングメディア
サッシタイムス社
産業新聞社
産業タイムズ社
JAF メディアワークス
ジェイツ・コンプレックス
時事通信社
時報社
潤滑通信社
食品化学新聞社
新農林社
水産タイムズ社
石油化学新聞社
全国賃貸住宅新聞社
チャレンジ
TBS テレビ
鉄鋼新聞社
テレビ朝日
テレビ東京
電気書院
電材流通新聞社
電波新聞社
電波タイムス社
内外多文化福祉新聞
日経 BP 社
日経 BP 総研
日本経済新聞社
日本工業出版
日本テントシート工業組合連合会
日本内燃力発電設備協会
日本放送協会
ニュースニッポン社
人間と科学の研究所
練馬放送
農経新報社
ハイブリィド
ピーオーピー
BCN
ビジネスガイド社
ファスニングジャーナル
福井新聞社
フジクリエイティブコーポレーション
物流機械新聞社
物流産業新聞社
FLIGHTS
ブルームバーグ・エル・ピー
文化放送
防災ニュースレター
北海道建設新聞社
マシニスト出版
メトロポリタンテレビジョン
Mogura
矢野経済研究所
UBM ジャパン
読売新聞社
ラベル新聞社
リックテレコム
リフォーム産業新聞社
流通研究社

記事掲載

スマートファクトリー Japan 2019　出展募集 1面参照

▷会期＝2019年6月5日－7日
▷会場＝東京ビッグサイト（青海展示棟）
▷展示構成＝人手不足サポートコーナー、設計＆製造プロセス最適化コーナー、明日から使えるＩｏＴ・ＡＩソリューションコーナー、ペーパーレス化対策コーナー、蓄積データ解析・活用コーナー、マスカスタマイゼーション実現コーナー
▷特別企画＝ブロックチェーンで変わる生産現場ゾーン
▷出展料金＝1小間（税込み）（間口2.97m×奥行き2.97m）企業＝345,600円
自治体・公的機関・学校＝270,000円
▷出展申込期限＝2019年2月28日 ※早期申込割引あり
▷問い合わせ 日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14－1 TEL 03・5644・7221 FAX 03・5641・8321 URL https://biz.nikkan.co.jp/eve/smart-factory/ メール springfair@media.nikkan.co.jp
日刊工業新聞社

2018年7月24日付（8面）



2019 防災産業展 in 東京　出展募集 1面参照

▷会期＝2019年6月5日 7日
▷会場＝東京ビッグサイト（青海展示棟）
▷出展対象＝地震対策、火災対策、津波・水害対策、土砂災害、雷害対策、突風・竜巻対策、医療介護、再生可能エネルギー、帰宅困難者対策、車輌、情報システム、ドローン活用サービス、労働災害、発電・蓄電システム、建設・維持管理技術など
▷出展料金 税込み 1小間（間口2.97m×奥行2.97m） 企業＝345,600円
自治体・公的研究機関＝270,000円 大学・高専＝108,000円
▷出展申込期限＝2019年2月28日 ※早期申込割引あり
▷問い合わせ 日刊工業新聞社業務局イベント事業部 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL 03・5644・7221 FAX 03・5641・8321 URL https://biz.nikkan.co.jp/eve/bousai/ eメール springfair@media.nikkan.co.jp 主催 日刊工業新聞社

2018年8月7日付（15面）

スマートファクトリーアワード

光洋陶器など5件選定

日刊工業新聞社とモノづくり日本会議は、「スマートファクトリーアワード2019」に5件を選定した。生産管理や製造現場の先進化・効率化で優れた事例を表彰する。6月5日に東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で開幕する展示会「スマートファクトリーJapan2019」の会場で表彰式を行う。

スマートファクトリーJapan 2019

本社・モノづくり日本会議

選定されたのは光洋陶器（岐阜県土岐市）、人の技術やノウハウをデンソー、パナソニックライフソリューションズ（新潟県燕市）、HILLTOP（京都府宇治市）、ワールド山内（北海道北広島市）。いずれもIoT（モノのインターネット）を使うなどして先進的な生産システムを構築した。

光洋陶器は業務用食器の製造において、職人の技術やノウハウをデンソー、パナソニック自動機やロボットに置き換えつつ、製造工程の見える化を進めた。

AI・IoT活用 先進事例

2019年5月21日付（7面）

スマートファクトリー Japan 2019
6月5－7日 東京ビッグサイト青海展示棟

「スマートファクトリーＪａｐａｎ 2019」（日刊工業新聞社主催）が6月5－7日に東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で開催される。出展する新しい技術やソリューションを一足先に紹介する。（3回連載）

ＡＩが設備故障の予兆分析

ＳＣＳＫは時系列数値解析ソフトウエア「ファルコンリー＝イメージ」を出展する。産業機械の温度や振動などの時系列データを人工知能（ＡＩ）が学習・分析する。異常信号を早期検知し、異常発生に影響を与えるデータを特定する。データサイエンティストがいなくても、設備故障の予兆検知や製品不具合の検出、原因特定が可能になる。

工場のペーパーレス化促進

カミナシ（東京都千代田区、03・6206・0374）は、工場向けに帳票のＩＴ化を進めるクラウドサービス「カミナシ＝イメージ」を展示する。印刷や記入など人力で行っていた単純作業の手間を削減し、ペーパーレス化を促進する。これまで食品業界での導入が多かったが、今回の出展を機に他業界への展開を期待する。

新世代の生産計画ソフト

フレクシェ（東京都品川区、03・6712・9549）は、柔軟性と使いやすさを両立した生産スケジューラー「ＦＬＥＸＳＣＨＥ＝イメージ」を展示する。製造業の工程計画や生産計画、負荷計画、在庫計画など各種の計画業務に活用できる。ブースでは同製品のデモや導入事例を紹介するほか、他システムとの連携も説明する。

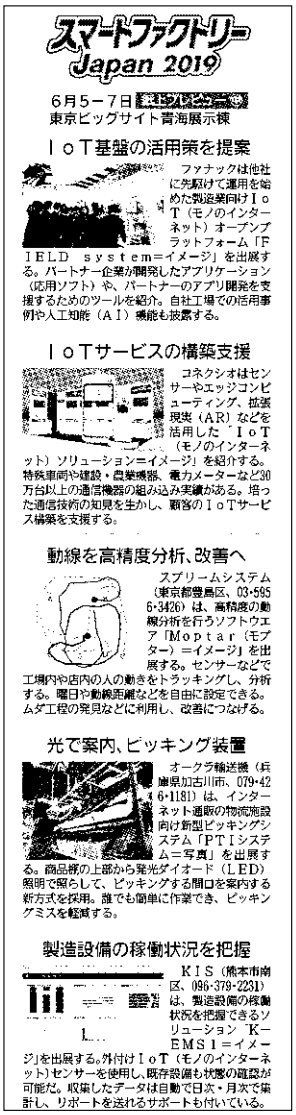
完全自動で全数検査可能

ナ・デックスは、外観検査を自動で行う「次世代品質管理システム＝イメージ」を出展する。2m の距離から50㍉㍍（マイクロは100万分の1）のキズやへこみなどを検出できるシステムで、完全自動化による全数検査が可能。ブースでデモンストレーションを行う。インラインでの各種検査ソリューションなども展示する。

生産安定化、歩留まり向上

オサダコーポレーション（神奈川県藤沢市、0466・47・7546）は、フィルム上の異物を除去する転写ロール方式のフィルムクリーナーに搭載するスマートマシンチェッカー（写真）を紹介。状態を監視し的確な保守が可能。部品の劣化や故障の予兆をとらえ、安定生産と歩留まりの向上に貢献する。遠隔監視もできる。

2019年5月22日付（8面）



スマートファクトリー Japan 2019
6月5－7日 東京ビッグサイト青海展示棟

ＩｏＴ基盤の活用策を提案

ファナックは他社に先駆けて運用を始めた製造業向けＩｏＴ（モノのインターネット）オープンプラットフォーム「ＦＩＥＬＤ ｓｙｓｔｅｍ＝イメージ」を出展する。パートナー企業が開発したアプリケーション（応用ソフト）や、パートナーのアプリ開発を支援するためのツールを紹介。自社工場での活用事例や人工知能（ＡＩ）機能も披露する。

ＩｏＴサービスの構築支援

コネクシオはセンサーやエッジコンピューティング、拡張現実（ＡＲ）などを活用した「ＩｏＴ（モノのインターネット）ソリューション＝イメージ」を紹介する。特殊車両や建設・農業機器、電力メーターなど30万台以上の通信機器の組み込み実績がある。培った通信技術の知見を生かし、顧客のＩｏＴサービス構築を支援する。

動線を高精度分析、改善へ

スプリームシステム（東京都豊島区、03・5956・3426）は、高精度の動線分析を行うソフトウエア「Ｍｏｐｔａｒ（モプター）＝イメージ」を出展する。センサーなどで工場内や店内の人の動きをトラッキングし、分析する。曜日や動線距離などを自由に設定できる。ムダ工程の発見などに利用し、改善につなげる。

光で案内、ピッキング装置

オークラ輸送機（兵庫県加古川市、079・426・1181）は、インターネット通販の物流施設向け新型ピッキングシステム「ＰＴＩシステム＝写真」を出展する。商品棚の上部から発光ダイオード（ＬＥＤ）照明で照らして、ピッキングする間口を案内する新方式を採用。誰でも簡単に作業でき、ピッキングミスを軽減する。

製造設備の稼働状況を把握

ＫＩＳ（熊本市南区、096・379・2231）は、製造設備の稼働状況を把握できるソリューション「Ｋ－ＥＭＳｉ＝イメージ」を出展する。外付けＩｏＴ（モノのインターネット）センサーを使用し、既存設備も状態の監視が可能だ。収集したデータは自動で日次・月次で集計し、リポートを送れるサポートも付いている。

2019年5月23日付（8面）

記事掲載

2019年5月23日付（16 面）

2019年5月22日付（16 面）

2019年5月27日付（18 面）

2019年5月24日付（15 面）

2019年5月28日付（18 面）

記事掲載

スマートファクトリー Japan 2019

モノを高度化するには、モノづくりの現場も高度化する必要がある。7日まで開かれる展示会「スマートファクトリーＪａｐａｎ2019」では、ＩｏＴ（モノのインターネット）機器や人工知能（ＡＩ）ソリューション、ロボット、物流システムなど、生産効率化や人手不足対策に役立つさまざまな技術・システムが披露される。各社の展示ブースでは来場者が自社の改革につながるヒントを探った。（1面参照）

解決のヒント 見える化

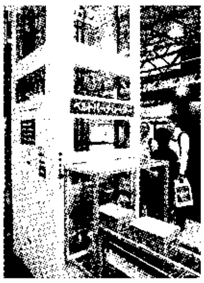
アマダ

アマダは、ＩｏＴサービス「Ｖ－ｆａｃｔｏｒｙ」を展示し、次世代のスマート板金工場を提案する。同社は4月にすべての機械でＩｏＴ対応を標準仕様とし、取り組みを本格化させた。事前のプログラミングで加工手順や使用金型がナビゲートされるなど生産効率の向上を支援する。さらに、機械の予防保全や運用改善提案などのサービスも提供する。工場の「今」の課題を見える化し、付加価値の高い生産を実現する。

ファナック

ファナックはスマートファクトリーの構築を支援する工場向けＩｏＴ基盤「フィールドシステム」や、同基盤で運用するアプリケーション（応用ソフト）などを出展した。第三者企業のアプリ開発を支援する開発用環境「フィールドシステムスタジオ」、設備の稼働状況を簡単に「見える化」できるエントリーモデルの稼働監視アプリなどを訴求。斉藤裕副社長は同基盤で「どのようにスマートファクトリーを創っていくかを訴えたい」と述べた。

ホクショー



ホクショーは上下階の連続搬送向けに、昇降部に樹脂ベルトを採用した垂直コンベヤー「ベルトバーチレーター」を出展した。20㌔㌘の荷物の搬送用としては業界最速となる1時間当たり3000個を運べるという。金属摺動（しゅうどう）部がないため摩耗粉が生じず、潤滑油も使わない。予兆メンテナンスシステムを組み込み、長期の安定稼働も支援する。「医薬品や食品、二次電池などクリーンな環境を求める工場の需要を開拓したい」（担当者）と意気込む。

伊東電機

伊東電機は直進や仕分け、昇降といった機能別にモジュール化したマテハン機器「ｉｄＰＡＣ」を提案する。それぞれが制御プログラムとモーターを搭載しているため、ユーザーはモジュールを組み合わせるだけで短時間で最適なレイアウトを構築できる。遠隔監視・操作も可能で、搬送システムや制御プログラム担当者の負担軽減に寄与する。伊東徹弥取締役専務執行役員は「働き方改革にあわせた"運び方改革"を追求していきたい」と思い描く。

オカムラ

オカムラは、倉庫作業を支援するシステムを展示している。ロボットストレージシステム「オートストア」はグリッド内に格納された保管物が入るコンテナをつり上げ、入出庫作業場へ搬送する。省スペースと省力化に寄与する。加速能力が従来品比75%、搬送能力が同20%それぞれ向上した新モデルを追加した。流通業を中心に20件超の実績がある。今後は「アフターサービス部品の管理など製造業にも利用してもらいたい」と提案の幅を広げる。

日立システムズ

日立システムズは、さまざまな情報通信技術（ＩＣＴ）ツールを展示し、工場のスマート化を支援する。「協働ロボットサポートサービス」は、単純作業ができる協働ロボの導入前コンサルティングから導入、メンテナンスまで一元的にサポートする。ロボのメーカーやＳＩ（システム構築）企業と連携して提供する。同社は「人に頼らず、できる部分はＩＣＴ化することで人手不足といった課題解決を支援したい」としている。

2019年6月6日付（28面）

スマートファクトリー Japan 2019

スマートファクトリーアワード2019

光洋陶器など5社表彰

ロボ導入進め 工程見える化

ＩｏＴ（モノのインターネット）などを用いた先進的なモノづくりをたたえる「スマートファクトリーアワード２０１９」の表彰式が５日、同日開幕した「スマートファクトリーＪａｐａｎ２０１９」の会場内で開かれた。光洋陶器（岐阜県土岐市）、デンソー、パナソニックライフソリューションズ社新潟工場（新潟県燕市）、ＨＩＬＬＴＯＰ（京都府宇治市）、ワールド山内（北海道北広島市）の５社を表彰した。（１面参照）

受賞各社はいずれもＩｏＴや人工知能（ＡＩ）などの先進技術を導入し、生産管理や製造現場を効率化した点が評価された。光洋陶器は業務用食器の製造において、職人の技術やノウハウを自動機やロボットに置き換えると同時に製造工程の見える化を進めた。

ワールド山内はＩｏＴを使った独自の生産管理システムを導入し製造現場の生産性や安全性を高めた。同社の山内雄矢社長は表彰式で「ＡＩやロボットの活用をさらに推進し、世界に通じる日本のモノづくりを北海道から発信していきたい」と力を込めた。

表彰式で壇上に並んだアワード受賞者ら

記念講演では経済産業省の井上宏司製造産業局長が登壇し「製造業を巡る環境変化、課題と対応の方向性」をテーマに講演した。井上局長は日本の製造業が自動車、素材などの分野で競争力を維持する一方、人材不足や産業変革期への対応に課題があると指摘した。

勝ち残り策として「現場の良質なデータを生かしたニーズ特化型サービスの提供や熟練技能のデジタル化が重要になる」と強調した。

2019年6月6日付（7面）

「スマートファクトリー展」きょう開幕

スマートファクトリー Japan 2019

7日まで／ビッグサイト青海

モノづくりの高度化に関する技術・システムを集めた展示会「スマートファクトリーＪａｐａｎ２０１９」（日刊工業新聞社主催）と、防災関連技術の展示会「２０１９防災産業展ｉｎ東京」（日刊工業新聞社主催、日本防災産業会議共催）が東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で５日、開幕する。会期は７日まで。入場料は１０００円（招待券持参者・事前登録者は無料）。

「スマートファクトリーＪａｐａｎ」は、導入が簡単なＩｏＴ（モノのインターネット）・人工知能（ＡＩ）ソリューション、設計・製造のプロセス最適化、人手不足をサポートするロボットや物流システム機器などを展示する。「防災産業展ｉｎ東京」では児童用ライフジャケットや移動型大規模空調、気象防災システムなどを紹介する。

会期中にはリコーグループの企業防災についてや、製造業におけるブロックチェーン（分散型台帳）の運用についての講演がある。５日に「スマートファクトリーアワード２０１９」の表彰式、６日に防災安全協会による「災害食大賞２０１９」の表彰式も行う。

2019年6月5日付（1面）

記事掲載

スマートファクトリーアワード2019

来月5日贈賞式 **生産性向上・新事業モデル評価**

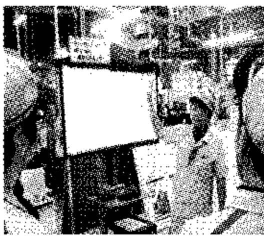
デンソー・ヒルトップなど5件選定

日刊工業新聞社が主催し、モノづくり日本会議が協力する「スマートファクトリーアワード2019」の表彰式が6月5日、東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で開催される。同アワードは製造現場で収集したデータを活用し、生産性の向上や新たなビジネスモデルの創出など、優れた成果を上げた事例を表彰する制度。2回目となる今回は、デンソー、パナソニックライフソリューションズ社新潟工場（新潟県燕市）、ヒルトップ（京都府宇治市）、ワールド山内（北海道北広島市）、光洋陶器（岐阜県土岐市）の5件が選定された。

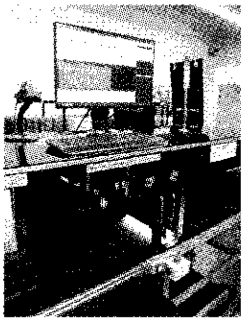
デンソーは「モノづくりは人づくり」をコンセプトに、現場の有益な情報を人にタイムリーに届け、改善を加速させることで人の成長を促す共創型IoT（モノのインターネット）を実現した。

機械加工メーカーのヒルトップは、独自の生産管理システムで熟練の職人の加工技術をデータ化し、定型業務の機械化を進めることで、少量多品種の24時間無人稼働を実現。オフィスと現場の遠隔操業も行っており、生産性の向上を図っている。

本贈賞式は「スマートファクトリーJapan2019」の併催行事。同会場ではコネクテッド・インダストリーズをテーマに、経済産業省の井上宏司製造産業局長、プリファードネットワークス（東京都千代田区）の比戸将平執行役員研究開発担当VP、アイ・スマート・テクノロジーズ（愛知県碧南市）の木村哲也社長が登壇する講演会も開く。定員は300人。入場料は1000円（招待券持参者・ホームページでの事前登録者は無料）。申し込みはウェブサイト（https://biz.nikkan.co.jp/eve/smart-factory/）から。



デンソーは共創型IoTを実現（同社提供）



パナソニックライフソリューションズ社ライティング事業部新潟工場は、AI外観検査機による自動検査で省人化を実現（同社提供）

2019年5月22日付（26 面）

安全・安心な住・生活環境を実現する

2019防災産業展 in 東京 見てある記

止水ドア／電力見える化／地下水活用

BCP意識高まる

5日に開幕した「2019防災産業展」には「安全・安心な住・生活環境を実現する」をテーマに111社・団体が出展し、防災・減災に関する対策製品や先端技術を展示・実演した。企業の事業継続計画（BCP）の意識が高まる中、来場者は最先端の防災・減災対策や技術に関心を寄せていた。（1面参照）

浸水を最小限

文化シャッターは建物の浸水被害を最小限に抑える4種類の止水製品を展示・実演した。止水ドア「アクアード」は止水高さ3mで、一般的なスチールドアと同等の操作性、防火性能を併せ持つ。企業のBCP意識が高まり、ビルや工場の電気室、サーバー室に導入が進む。「最近は発電所、空港からの引き合いが多い」（小松忠博新事業・特需事業本部止水事業部長）という。

電池残量把握

NTTドコモは指定避難所の電力を見える化する活用法を紹介した。仙台市、東北大学と共同実験協定を結び、196カ所の蓄電池を有効利用。避難者が災害時などに避難場所で使える蓄電池の残量を把握でき、「タブレット端末やスマートフォンから非常用電源の情報が一目でわかり活用できる」（竹野和彦先進技術研究所主幹研究員）。

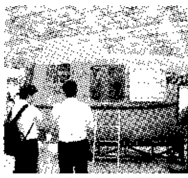
三菱ケミカルホールディングス（HD）はグループ各社の防災・減災製品を展示。地下水ろ過システムは公共水道を単価の安い地下水に切り替え、初期投資なく公共水道料金を削減できる。普段使いながら、災害時は防災・減災対策に役立つため「BCPの観点から病院や商業施設、工場に導入が進んでいる」（中西信之市場開発統括マネジャー）と強調した。

カメラ即設置

イートラスト（東京都台東区）のクラウド型防災監視カメラシステムは、インフラ条件に左右されず即時の設置が可能。同社の畔上信康氏は「国交省の革新的河川技術プロジェクト（第3弾）実証実験に参加し、自治体の引き合いが増えている」と話す。

減災サステナブル技術協会（東京都千代田区）ではミズノマリン（大阪府豊中市）が25人乗り救命艇シェルターを展示、来場者に注目されていた。

止水ドア「アクアード」の実演



ミズノマリンの救命艇シェルター

2019年6月6日付（14面）

「防災産業展in東京」で講演会

内閣官房

ハラール対応 必要性を強調

「災害食大賞」表彰式も

防災安全協会と日本防災産業会議は6日、東京ビッグサイト青海展示棟で開催中の「防災産業展in東京2019」（日刊工業新聞社主催）で、講演会と「災害食大賞2019表彰式」＝写真＝を開いた。内閣官房の勝野美江参事官が、20年の日本の食文化発信について、東京五輪・パラリンピックでの飲食提供を事例に説明。ハラールやベジタリアン対応が求められ、持続可能性に配慮する食材調達基準の国内普及が必要とし、「企業においてGAP（農業生産工程管理）食材の活用をさらに拡大することがオリンピックレガシーになるだろう」（勝野氏）と述べた。甲南女子大学の奥田和子名誉教授は訪日外国人が驚く災害食をテーマに講演した。飲食物の入手が難しい災害時も、イスラム教徒向けのハラール災害食やパンを好む欧米在日外国人向けの災害食が必要だと話した。

また同日、防災安全協会は「災害食大賞2019」の4部門の優秀賞から金賞、銀賞、銅賞、奨励賞、特別賞を決定。うまみ部門で三徳屋「そのままOKカレー」が金賞を受賞するなどした。

2019年6月7日付（17面）

日本防災産業会議 講演会

6月5－7日・東京ビッグサイト青海展示棟

2019 防災産業展 in 東京

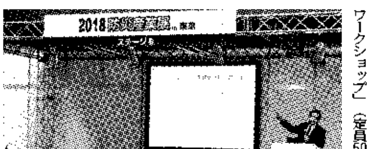
防災科研の試み・災害食・技術・製品などテーマ

日刊工業新聞社と日本防災産業会議は、6月5日から7日まで東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で開催される「2019防災産業展in東京」で講演会を開く。

5日11時からメインステージ（定員300人）で防災科学技術研究所の林春男理事長が「『生きる』を支える科学技術を目指す防災科研の試み」と題して講演する。6日10時20分から防災安全協会との共催で内閣官房の勝野美江参事官が「2020年における日本の食文化発信について」、甲南女子大学の奥田和子名誉教授が「訪日外国人が驚く災害食とはなんでしょう」をテーマに話す。

防災産業会議会員企業が自社の製品や技術を講演する「日本防災産業会議会員ワークショップ」（定員50人）には、5日にTHKの村尾秀己ACE事業部顧問（11時20分－同50分）と三菱ケミカルホールディングスの倉本信二経営戦略部門担当部長（13時20分－同50分）、7日に文化シャッターの砂川雅彦商品開発部開発一部主任（13時20分－同50分）と構造計画研究所の熊井暖陽事業開発部気象防災ビジネス室（14時20分－同50分）が登壇する。三菱ケミカルホールディングスと文化シャッターは講演する製品をブースでも紹介する。

本展示会の入場料は1000円（招待券持参者・ホームページでの事前登録者は無料）。講演はともにモノづくり日本会議が協力している。申し込みは防災産業展のホームページ（https://biz.nikkan.co.jp/eve/bousai/）から。



㊤基調講演する林理事長（昨年の講演会場）

㊦三菱ケミカルホールディングスのブース（昨年の展示会場）

2019年4月23日付（16面）

記事掲載

スマートファクトリー Japan 2019

6月5－7日
東京ビッグサイト青海展示棟

「スマート板金工場」を提案

アマダホールディングス（HD）は、IoT（モノのインターネット）サービス「V－factory」を紹介する（写真は対応機）。4月にIoT対応を標準仕様とし、取り組みを本格化させた。機械性能を最大限引き出すツール「My V－factory」、稼働を見守る「IoTサポート」などからスマート板金工場を提案する。

3カ月で「成果出すIoT」

セゾン情報システムズは3カ月でIoT（モノのインターネット）データの見える化・分析ができるトータルIoT分析サービス「シンプル・アナリティクス＝イメージ」を紹介する。生産ラインの品質改善と生産性向上のきっかけをすばやく発見し「成果を出せるIoT」を実現できる。期間やコストを抑えてIoT活用に取り組める。

荷降ろし、AIで認識力向上

IHI物流産業システム（東京都江東区、03・6204・8181）は、「AI搭載デパレタイズシステム＝写真」を紹介する。パレットに積まれた段ボールを自動で荷降ろしするデパレタイズシステムに人工知能（AI）を搭載、認識能力を大幅に高めた。エンジニアリング力を駆使した最新ソリューションを展示・提案する。

新増設容易な搬送システム

伊東電機（兵庫県加西市、0790・47・1225）は、容易に搬送ラインの新設や増設ができる搬送システム「id－PAC＝写真」を出展する。運ぶ、仕分ける、揚げるといった作業ができる各モジュールをつなぎ、パソコン制御により、特定の時間帯や時期の運用に応じてモノの流れを柔軟に変更できるのが特徴。

2019年5月24日付（9面）

7日まで開催中の「スマートファクトリーJapan2019」の「日本物流システム機器協会－IoT&マテハンゾーン」では、IoT（モノのインターネット）技術を活用した省力化システム、ロボット、マテハン機器などの出展が目立った。深刻な労働力不足は産業界全体で大きな課題だ。省人化・標準化への関心が高まる中、来場者は最新技術に関心を寄せていた。（編集委員・嶋田歩）

物流機器、省人化に脚光

荷降ろしや搬送、ピッキング…
AI・ロボ 活用広がる

オークラ輸送機はバーコードの読み取りによって管理できるピッキングシステムを出展

スマートファクトリー Japan 2019

IHI物流産業システム（東京都江東区）は、人工知能（AI）を用いた荷物の荷降ろし（デパレタイズ）システムを紹介。異なる形状や大きさの箱物でも対応できるのが強みで、3社から受注し、引き合いも数多くあるという。AI対応システムはMUJIN（東京都墨田区）なども開発済みで「参入企業が増えたことで顧客の認知度が上がり、これまでは不可能だと考えていた物流現場の企業からも問い合わせを多くもらうようになった」（IHI物流産業システム）と話す。

オークラ輸送機（兵庫県加古川市）は、倉庫現場で物品のバーコードの読み取りを管理するピッキングシステムや海外製ロボットを展示。バーコード読み取りは光が直進する発光ダイオード（LED）を使うため「読み取りミスがない」（オークラ輸送機）と胸を張る。同社が販売代理店を務めるシンガポールのグレイオレンジ製の自動搬送ロボット「バトラーM」は最大積載荷重が600キロ㌘であり、大物の対象物（ワーク）が運べる。ニトリホールディングス（HD）から79台注文があったのに続き、自動車部品や電子商取引（EC）会社向けに拡販中という。

オカムラはロボットストレージシステム「オートストア」を展示。バッテリーを搭載し、充電ステーションで自ら充電、自動走行する。顧客先は物流配送センターが主。物流センターは人手不足が深刻化しており、「採用の追い風になっている」と話す。

西部電機はコンテナ積み降ろしロボットシステムなどのマテハンシステムを展示。「複数メーカーのロボットに対応できるのが強み」と、マテハンメーカーの利点を強調する。

ホクショー（金沢市）はケース品搬送用に、ベルト式の垂直連続搬送機「ベルトバーチカレーター」を展示。「チェーン式と違って完全無給油、金属摩耗粉の心配もないため、食品や医薬品などに向く」とPRしていた。

ホクショーはベルト式の垂直連続搬送機を食品や医薬品業界に売り込む

2019年6月7日付（10面）

モノづくり高度化 提案

モノづくりの高度化・効率化に寄与する技術やシステムを提案する展示会「スマートファクトリーJapan2019」（日刊工業新聞社主催）と、災害から生活環境を守る技術を集めた展示会「2019防災産業展in東京」（日刊工業新聞社主催、日本防災産業会議共催）が5日、東京・青海の東京ビッグサイト青海展示棟で開幕した。会場には企業や行政、研究機関の関係者が訪れ、熱気に包まれた。　（7、14面に関連記事、最終面に写真特集）

スマートファクトリー Japan 2019

経済産業省の大内聡官房審議官（製造産業局担当）は開会式で「第4次産業革命の進展で、人工知能（AI）やロボット、IoT（モノのインターネット）などの技術を社会実装していくことが可能になった」とした上で「モノづくり現場に蓄積されたリアルデータの活用こそ、第4次産業革命下における日本の勝ち筋だ」と力を込めた。

「スマートファクトリーJapan」は今年で4回目を迎えた。新たに「IoT&マテハンゾーン」を設け、自動ピッキングや予兆メンテナンス、無線識別（RFID）による管理システムなど物流を効率化する取り組みを紹介。ブースでの実演に足を止め、見入る人が目立った。

18年に大規模な自然災害が相次いだことを背景に、8回目となった「防災産業展in東京」にも注目が集まった。今回は社会インフラ（ライフライン）の維持管理技術や発電・蓄電システムといった防災・減災技術をはじめ、ドローンを活用したサービスまで幅広く発信。災害時の有用性を訴求した。

会期は7日まで。入場料は1000円（招待券持参者・事前登録者は無料）。

熱気に包まれた「スマートファクトリーJapan2019」会場

2019年6月6日付（1面）

ブロックチェーン 平野推進協代表理事が講演会

スマートファクトリー Japan 2019

日刊工業新聞社は6日、「製造業におけるブロックチェーン適用と可能性」と題した講演会を、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催中の展示会「スマートファクトリーJapan2019」の会場内で開いた。ブロックチェーン推進協会の平野洋一郎代表理事（アステリア社長＝写真）が、ブロックチェーン（分散型台帳）の仕組みや利活用市場、製造業での活用効果などについて講演した。（10、17面に関連記事）

近年、暗号資産（仮想通貨）の盗難事件などを背景にブロックチェーンの評価が低下している。その中で、改ざんが許されないデータを扱うあらゆる業界でのブロックチェーン活用の可能性を指摘し、「これからが本番」（平野代表理事）とした。

製造業でも検査・検証データの改ざん防止やサプライチェーンの履歴管理などを端緒に利用できることを、データ改ざんができない仕組みなどを交えながら説明。ブロックチェーンは「21世紀の『自律・分散・協調』型の組織を支えるインフラになる」と力説した。

2019年6月7日付（2面）

スマートファクトリー展が閉幕 4万3千人来場

生産現場の高度化に関する技術を集めた展示会「スマートファクトリーJapan2019」（日刊工業新聞社主催）と、防災関連技術の展示会「2019防災産業展in東京」（日刊工業新聞社主催、日本防災産業会議共催）は盛況裏に7日、閉幕した。3日間の来場者は4万3169人だった。

お礼

日刊工業新聞社主催の「スマートファクトリーJapan2019」と、「2019防災産業展in東京」（日本防災産業会議共催）は、盛況のうちに無事閉幕しました。後援・協賛の関係諸官庁・団体ならびに出展各位のご協力に厚くお礼申し上げます。

日刊工業新聞社

2019年6月11日付（2面）

11 | 6月3日・月曜日 2019年（令和元年） | ［広告特集］ 日刊工業新聞 | 第3種郵便物認可

青海展示棟Aホール 小間No.S-81
サービスロボット・メカトロゾーン
協力：かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 ※出展者による連合広告（有志）（順不同）

神奈川県内企業を中心に、ロボット・機械向け要素技術や応用装置など、モノづくりに関するキラリと光るオリジナル商品を展示、披露します！

株式会社アサイ・エンジニアリング　神奈川県横浜市磯子区田中2-5-5
エクストコム株式会社　神奈川県大和市大和東1-6-12
株式会社小川優機製作所　神奈川県横浜市保土ケ谷区坂本町141
株式会社開明製作所　神奈川県横浜市旭区市沢町575-8
株式会社グリーンテクノ　神奈川県川崎市高津区子母口438
株式会社工苑　神奈川県川崎市高津区久地4-26-41
株式会社スタックス　神奈川県川崎市中原区下沼部1750
株式会社スリーハイ　神奈川県横浜市都筑区東山田4-42-16
相互電機株式会社　神奈川県横浜市都筑区佐江戸町186
株式会社テクトレージ　神奈川県横浜市緑区青砥町258-3F
東信電気株式会社　神奈川県川崎市麻生区栗木2-6-4
東洋電源機器株式会社　神奈川県横浜市港北区新羽町2306
株式会社ナガオシステム　神奈川県川崎市麻生区片平1-9-30
マイクロテック・ラボラトリー株式会社　神奈川県相模原市南区上鶴間本町8-1-46
株式会社MEMOテクノス　神奈川県相模原市南区大野台1-5-2
横浜電子株式会社　神奈川県横浜市保土ケ谷区仏向町937-2
よこはまファクトリー　神奈川県横浜市保土ケ谷区坂本町250-1
地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所　神奈川県海老名市下今泉705-1
かわさきロボット競技大会　神奈川県川崎市幸区堀川町66-20

海峡を越えた省力機器、熱絶縁関連工事総合熱エンジニアリングコラボレーション
株式会社テクノカシワ　東京都品川区南品川2-3-6 第7コイケビル7F
株式会社マテックス　長崎県長崎市田中町608-73
信栄工業有限会社　長崎県長崎市小ケ倉町3-81-2

2019防災産業展in東京　スマートファクトリーJapan2019

6月5日—7日　東京ビッグサイト青海展示棟

6月5日から7日までの3日間、東京ビッグサイト青海展示棟で、日刊工業新聞社主催の「スマートファクトリーJapan2019」「2019防災産業展in東京」が開催される。時間は10時から17時まで。入場料は1000円（事前登録者、招待券持参者、中学生以下は無料）。

IoT&マテハンゾーン新設

スマートファクトリーJapanは今回で第4回を迎える。製造現場や生産管理の先進化と効率化を目指し、2016年にスタートした。出展規模は125社・団体、263小間。情報管理・処理システムや製造設備・装置、通信機器・システム、工場内エネルギー、リスク対策、開発支援・シェアリングサービス・コンサルティング・保険の分野から、スマートファクトリーの実現に役立つ技術・製品・サービスを展示する。

AI・IoT関連をはじめ最新技術・製品が集まる

労働力不足が問題となっている昨今、業務内容を見直し、作業工程の無駄を省く省人化・省力化の取り組みがますます重視されている。経済産業省が打ち出した戦略「コネクテッド・インダストリーズ（CI）」はデータの利活用により技術革新や生産性向上、技能伝承を通じた課題解決を行うことを目的としており、IoT（モノのインターネット）や人工知能（AI）を取り入れた先進的なモノづくりが推奨されている。

展示会では日本物流システム機器協会によるIoT&マテハンゾーンを新設。自動ピッキングや予兆メンテナンス、無線識別（RFID）を活用した管理システムなど物流の効率化を実現するソリューションを展示する。

「IoTよろず相談コーナー」はITコーディネータによる無料の相談コーナー。来場者が抱えている課題を踏まえて、IoT、AI、次世代データ連携、クラウドシステムなど企業の生産性を上げる解決策を提案する。これらの技術に関心を持つ企業や、現場の現状に合わせた適切な導入手法を検討している企業におすすめだ。

Connected Industriesステージでは5日14時半から「製造業を巡る環境変化、課題と対応の方向性」と題し、経産省製造産業局長の井上宏司氏による基調講演を行う。製造業を取り巻くグローバルな環境変化や課題への対応の方向性を示すとともに、関連する政府の取り組みについて説明する。

最新の情報は公式サイト（https://biz.nikkan.co.jp/eve/smart-factory/）へ。

安全・安心な環境実現へ

防災産業展は今回で8回目の開催となる。企業のほかに大学・自治体などが出展し、防災に関する最新の製品・サービスを披露する。111社・団体が168小間で出展する。

テーマは「安全・安心な住・生活環境を実現する」。大規模な地震、津波の発生や、近年頻発し甚大化の傾向にある水害など、災害から生活環境を守ることを目的に開催する。

今回はインフラ維持管理の技術、発電・蓄電システム、ドローン活用サービスなどのカテゴリーを設けている。

最近では、避難所におけるプライバシーの確保に関心が高まっている。展示会では、自宅の庭や駐車場に設置できるシェルターが出展される。発泡スチロール製のため、津波に遭った時は水に浮く。工具なしで簡単に組み立てできる鍵付き個室のトイレも出展される。紙とプラスチックで作られているので使用後は焼却処分でき、衛生的だ。

各ブースではデモンストレーションも行われる（2018防災産業展in東京）

AIを活用した緊急情報サービスの出展も目立つ。SNSの投稿をAIで分析して、事故や災害情報をいち早く配信する。現場にいる目撃者の投稿が集められており、報道よりも早いタイミングで現場の状況を知ることも可能だ。

企業の事業継続計画（BCP）対策を支援する製品も出展される。ゲリラ豪雨などによる浸水被害を防ぐ止水板やドア、停電時に対応できるコンパクトで大容量のポータブル蓄電システム、床下に設置できる貯水タンクなど、災害時の備えとなる設備が見られる。

そのほか、併催事業として講演も行われる。5日13時からリコーリスクマネジメント室の荻原毅シニアマネジメントが「リコーグループにおける企業防災・危機管理のあり方」と題して講演する。7日15時半からディスコサポート本部の渋谷真弘BCM推進チームリーダーが「社員一人ひとりが災害に強い会社を目指して」をテーマに講演を行う。

最新の情報は公式サイト（https://biz.nikkan.co.jp/eve/bousai/）へ。

AMADA

アマダと描く、次世代のスマート工場

AMADA IoT

V-factoryはIoTを活用して、工場の「今」の課題を見える化し、アマダの新しいサービスにより課題を解決することで付加価値の高い生産を実現していく仕組みです。
お客さま工場の経営者からオペレーターまで、生産にかかわるすべての社員が「My V-factory」を介して同じ情報を共有し、利用・活用して、今の課題を素早く解決する。そこには、高い付加価値 時間、コストの削減などが生まれてきます。
次世代のスマート工場を実現させる仕組みをアマダがご提案いたします。

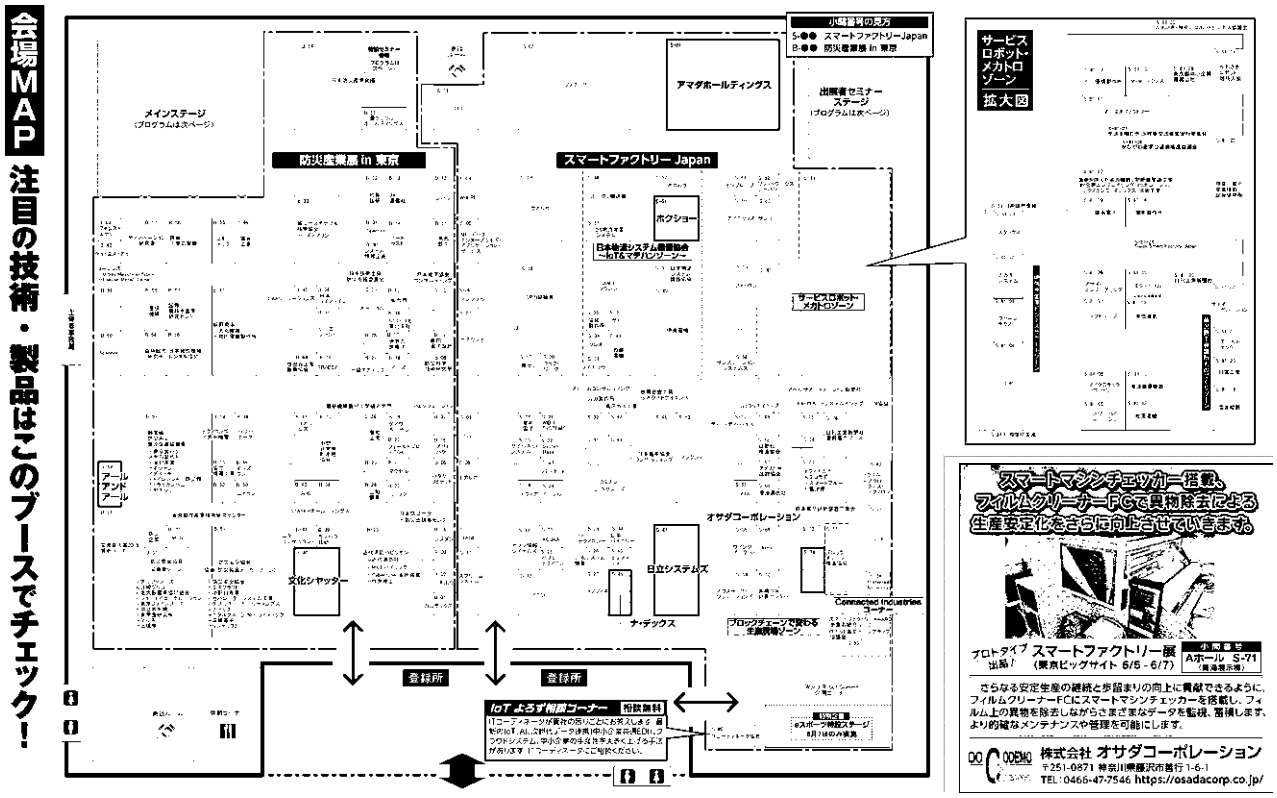
スマートファクトリーJapan 2019
2019年6月5日（水）～7日（金）
東京ビッグサイト青海展示棟
S-01に出展いたします

Growing Together with Our Customers
株式会社アマダ
www.amada.co.jp

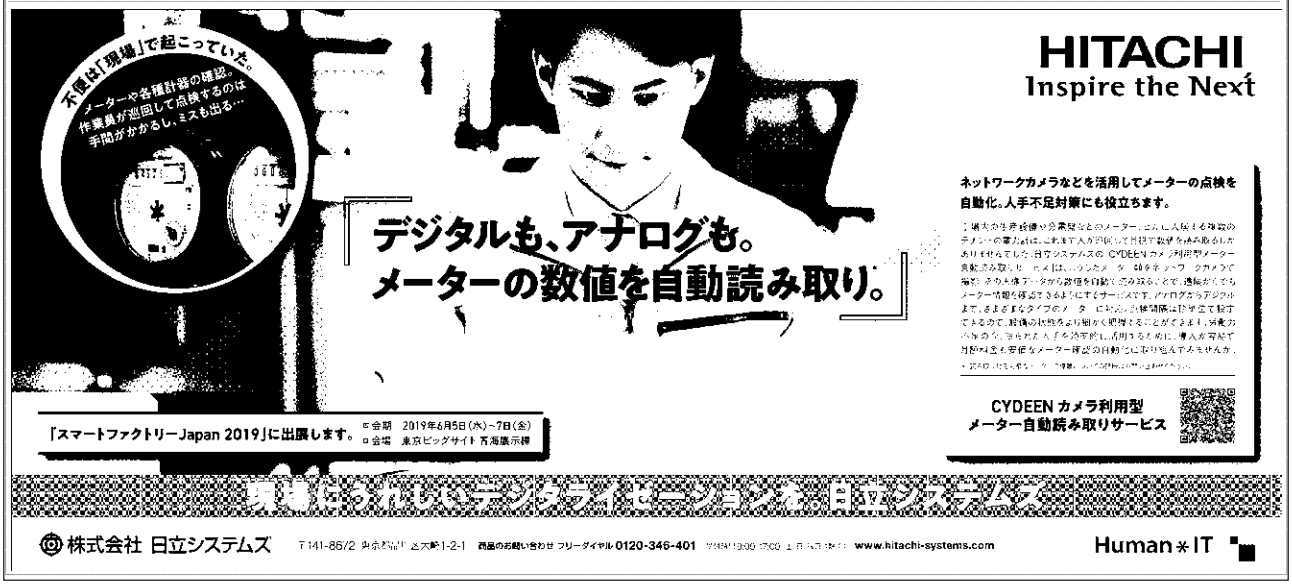
企画特集

スマートファクトリーJapan2019に出展いたします
注目の給油不要のベルト昇降式垂直連続コンベヤに
最新のIoTソリューション「状態監視システム」を
組み込み実機出展いたします。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。
ベルト昇降式垂直連続コンベヤ ベルトバーチレーター / 状態監視システム 予兆メンテナンスシステム
会期 6月5日(水)～7日(金)
会場 東京ビッグサイト 青海展示棟・Aホール
当社ブース位置は「IoT&マテハンゾーン」です。
ブースNo. S-51
HOKUSHO ホクショー株式会社
本社 〒920-8711 石川県金沢市示野町4-6 TEL076-267-3111(代)
仙工場 〒924-0004 石川県白山市旭丘3-17 TEL070-275-7711(代)
ホクショー https://www.hokusho.co.jp

"見えない"を
"見える"に変える
NADEX
本社：愛知県名古屋市中区古渡町9番27号 TEL052-323-2211
横浜営業所：神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目3番地8KDX 新横浜ビル3階 TEL045-270-0534


会場MAP
注目の技術・製品はこのブースでチェック！

スマートマシンチェッカー搭載、
フィルムクリーナーFCで異物除去による
生産安定化をさらに向上させていきます。
プロトタイプ出品！ スマートファクトリー展（東京ビッグサイト 6/5－6/7）
小間番号 Aホール S-71（青海展示棟）
さらなる安定生産の継続と歩留まりの向上に貢献できるように、フィルムクリーナーFCにスマートマシンチェッカーを搭載し、フィルム上の異物を除去しながらさまざまなデータを監視、蓄積します。より的確なメンテナンスや管理を可能にします。
CODEMO 株式会社 オサダコーポレーション
〒251-0871 神奈川県藤沢市首行1-6-1
TEL：0466-47-7546 https://osadacorp.co.jp/


不便は「現場」で起こっていた。
メーターや各種計器の確認。
作業員が巡回して点検するのは
手間がかかるし、ミスも出る…
デジタルも、アナログも。
メーターの数値を自動読み取り。
HITACHI
Inspire the Next
ネットワークカメラなどを活用してメーターの点検を自動化。人手不足対策にも役立ちます。
CYDEEN カメラ利用型
メーター自動読み取りサービス
「スマートファクトリーJapan 2019」に出展します。
会期 2019年6月5日(水)～7日(金)
会場 東京ビッグサイト 青海展示棟
現場にうれしいデジタライゼーションを。日立システムズ
株式会社 日立システムズ 〒141-8672 東京都品川区大崎1-2-1 商品のお問い合わせ フリーダイヤル 0120-346-401 www.hitachi-systems.com
Human＊IT

2019年6月3日付（12面）

企画特集

落雷を制御する本当の避雷針！
【落雷バリア】DINNTECO 100PLUS
落とす避雷針から落とさない避雷針へ

アールアンドアールは、雷を落とすのではなく、未然に落とさないようにする避雷針【落雷バリア】「DINNTECO 100PLUS」をレンタル・販売している。雷の原理を理解し開発されたこの商品は、地上から雷雲に向けて「お迎え放電」を制御し、落雷自体を発生させない画期的な発想で開発された避雷針で、屋内設備システムへの影響や人的被害などの心配もなく、効果は第三者認証機関【ビューローベリタス】が認証しており、内閣府の防災推進協議会に属する防災安全協会からも「防災製品等推奨品」の推薦を受けている。地面に誘起された電荷を用いるため電源は不要で、維持の手間と費用はほとんどかからず、現在使用中の避雷針と交換もできる（要工事）。また、突然の雷雨で逃げ場がないイベントなどでも必需品となるだろう。

販売及びレンタル・リースにて対応

株式会社アールアンドアール
〒279-0012 千葉県浦安市入船1-5-2 プライムタワー新浦安16F TEL047-316-4688 https://www.r-rental.co.jp
営業開発部・東京営業所・神奈川営業所・多摩営業所・埼玉営業所・札幌営業所・東北営業所・名古屋営業所・大阪営業所・福岡営業所

併催講演

いずれも聴講無料　※聴講希望の方はWebサイトからお申込みください。※空席があれば当日受付もおこないます。

メインステージ（会場左側）

5日（水）

- 「『生きる』を支える科学技術」を目指す防災科研の試み」 M-1
  時間 11:00～12:00　防災科学技術研究所 理事長 林 春男 氏
- 「リコーグループにおける企業防災・危機管理のあり方」 M-2
  時間 13:00～14:00　リコー リスクマネジメント室 シニアマネジメント 荻原 毅 氏
- Connected Industriesステージ M-3
  時間 14:30～16:35【協力：モノづくり日本会議】
  - 基調講演「製造業を巡る環境変化、課題と対応の方向性」 経済産業省 製造産業局長 井上 宏司 氏
  - スマートファクトリーAWARD2019表彰式
  - 特別講演1「深層学習がもたらす製造業のスマート化」 Preferred Networks 執行役員 研究開発担当VP 比戸 将平 氏
  - 特別講演2「1時間で始めるSmart Factory ～小さな投資 大きな進化 生産性IoT進化論～」 i Smart Technologies 代表取締役 CEO 木村 哲也 氏

6日（木）

- 防災安全協会×日本防災産業会議ステージ M-4
  時間 10:20～12:30【主催：防災安全協会、日本防災産業会議／協力：モノづくり日本会議】
  - 講演1「2020年における日本の食文化発信について」 内閣官房 参事官 勝野 美江 氏
  - 講演2「訪日外国人が求める災害食とはなんでしょう」 甲南女子大学 名誉教授 防災安全協会 顧問 NPOボランティアネットワークNANDA 理事 奥田 和子 氏
- 「インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブが目指す日本版ものづくり改革－『ゆるやかな標準』でつなげる第4次産業革命への挑戦－」 M-5
  時間 13:00～15:30【主催：インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ】
- 「製造業におけるブロックチェーン活用と可能性」 M-6
  時間 15:50～16:35　ブロックチェーン推進協会 代表理事 平野 洋一郎 氏

7日（金）

- 地方版IoT推進ラボ特別企画 M-7
  「地域から世界へ／IoT・AI時代に対応した新しい価値創出」【主催：地方版IoT推進ラボ、日本防災産業会議、日刊工業新聞社】
  時間 11:00～12:30
  パネリスト 美波IoT推進ラボ 美波町長 影治 信良 氏（他数名：調整中）
  モデレータ 東京大学大学院 情報学環 副学環長 教授 越塚 登 氏
- IoT・AI Innovationフォーラム【協力：クラウド利用促進機構】
  - 時間 13:00～13:45「AI IoT時代のものづくり革新」 M-8 日本アイ・ビー・エム グローバル・ビジネス・サービス事業本部 IoT & ビジネストランスフォーメーション パートナー 鈴村 敏央 氏
  - 時間 14:15～15:00「ヒトではなく、電子を走らせろ／デジタルがもたらす『真の産業革命』」 M-9 SAPジャパン インダストリー・バリュー・エンジニアリング統括本部 IoT/IR4 ディレクター 村田 聡一郎 氏
- 「社員一人ひとりが災害に強い会社を目指して」 M-10
  時間 15:30～16:30　ディスコ サポート本部 総務部 BCM推進チームリーダー 渋谷 真弘 氏

出展者セミナーステージ（会場右側）

5日（水）

- スマートファクトリーを実現する改革シナリオと実践事例 S-1【主催：日本能率協会コンサルティング、日刊工業新聞社】
  時間 10:10～11:10　日本能率協会コンサルティング デジタルイノベーション事業本部 執行役員 シニア コンサルタント 松本 賢治 氏
  - 出展企画「IoTスマートカートファクトリー道場」 会場 S-48：日本能率協会コンサルティングブース内
- 「スイスイノベーション・スイススマートファクトリー」 S-5【主催：Swiss Smart Factory Japan／協力：かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会、スイス外国企業誘致局】
  時間 14:30～15:10
  - 「スイス・事業拠点設立のメリットについて」 スイス大使館 外国企業誘致部 上席担当官 松田 健宏 氏
  - 「スイスイノベーション・スイススマートファクトリーの取り組みについて」 Swiss Smart Factory Japan 代表 小山 勇 氏
- かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会／グローバルビジネスセミナー「強い中小企業の海外展開向けプレゼンテーション」 S-8【主催：かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会】
  時間 15:30～16:10　サイマコーポレーション　東洋電源機器　スリーハイ　小川優機製作所

6日（木）

- 「Bosch IoT、データ収集のその先」 S-11
  時間 15:30～16:10　NTTデータエンタープライズ・アプリケーション・サービス 代表取締役社長 青木 秀行 氏

7日（金）

- 「Bluetooth技術が産業用IoTにもたらす可能性」 S-17　逐次通訳あり
  時間 15:30～16:20　Bluetooth SIG アジア太平洋地域 デベロッパー リレーションズ マネージャー カイ・レン 氏

災害食大賞2019表彰式

日時 6月6日（木）11:30頃（予定）　会場 メインステージ

発災直後から通常の生活に戻るまで、心身の健康を維持できるように、食育の観点も取り入れ、多様な災害食から優れた食品を選定し、表彰式を執りおこないます。受賞者の災害食品も会場内にて展示公開します。

主催 防災安全協会　後援：日本食育学会、日本防災産業会議、日刊工業新聞社

同時開催 電子機器トータルソリューション展2019

会期 6月5日（水）～7日（金） 10:00～17:00 ※最終日は16:00まで
会場 東京ビッグサイト・西ホール ※南展示棟会場からは1駅隣りになります

「スマートファクトリーJapan」「防災産業展 in 東京」の入場証または招待券を、上記展示会の登録所で提示いただくと、無料で招待券（通常1,000円）をお渡しします。

※記載内容は変更になる場合があります。最新情報は各展Webサイトでご確認ください。

有力企業の製品・技術〈順不同〉

スマートファクトリーJapan

日立システムズ

日立システムズは、製造現場の整理整頓やIoT化の下準備、現場作業のデジタル化や効率化など、工場のスマート化や人手不足対策を支援するサービスを展示する。

具体的には、人との協調作業に対応した現場業務のロボットの導入を企画、設計・構築、保守・運用まで一括して行うサービスや、メーター数値の目視点検を自動化した点検業務の効率化サービスなどを紹介する。

また、7日には実際に顧客の現場での運用改善や棚卸しなどを行った事例を紹介する「現場の部品予備品・治工具適正化による働き方改革と生産効率化へ」と題したセミナーも行う。

ホクショー

ホクショーは近年注目を集めている給油不要のベルト昇降式垂直連続コンベヤーケース品搬送用「ベルトバーチレーター」を出展する。オイルミスト（微粒子化した油成分）や金属摩耗粉が発生しないため、主に食品生産工場で導入が進んでいる。さらに、最新のIoTソリューション「予兆メンテナンスシステム」を組み込み、長期安定稼働の仕組みも提案する。

また、需要拡大を続ける重量物（パレット）搬送用垂直往復コンベヤーに組み込む、BCP対応の省エネ制御装置「E―VEAS」をパネルと映像で紹介する。大幅な省エネを実現するだけでなく、停電が発生しても自立起動により出庫作業が継続できる仕組みだ。

ナ・デックス

ナ・デックスは、今まで培った製造現場向けソリューションのノウハウを基に、「次世代品質マネジメント―『見えない』を『見える』に変える―」をテーマに出展する。

従来の技術では見えなかったモノやプロセス情報を「見える」に変えることで、飛躍的に進んだ次世代品質マネジメントを紹介する。

最新技術を活用した人による外観目視検査の自動化や、設計データから技術帳票の自動作成、生産設備稼働中の実効値をタイムリーに可視化し生産品質維持・管理するシステム、製造現場可視化による工場全体を最適化する仕組みなどを多数展示する。

アマダ

アマダのIoTソリューション「V―factory」は同社とユーザーがつながることで工場の「今」の課題を見える化し、付加価値の高いモノづくりを実現する仕組み。マシンの健康状態を見守り、安定稼働を支援する「IoTサポート」、マシンの運用・保守を見える化し、データを活用するための「My V―factory」、製造現場を支える各種ソフトウエア製品で構成される。

会場では製品紹介に加え人手不足の対応として、多様な人材が安心・安全に製造現場で活躍できるソリューションを提案。受注、計画、製造、出荷まで全工程における各種データを分析し活用することで、次世代のスマート工場を実現する。

オサダコーポレーション

オサダコーポレーションは異物除去でさらなる安定生産の継続と歩留まりの向上に貢献できるように、転写ロール方式のフィルムクリーナー（FC）に独自開発のスマートマシンチェッカーを搭載した。フィルム上の異物を除去しながらさまざまなデータを監視、蓄積する。

より的確なメンテナンスや運用を可能にし、部品の劣化や故障などの予兆をいち早く見いだせる可能性がある。スマホやタブレットにデータを飛ばして遠隔監視も可能で、最新機能もアップデートで対応できるように開発している。展示会ではプロトタイプを出品。さまざまな業界での実績でユーザーの課題に応えていく。

サービスロボット・メカトロゾーン

サービスロボット・メカトロゾーンでは神奈川県内企業・団体を中心に32社が共同出展する（かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会が協力）。サービスロボットや産業機械向けに適した中小企業のキラリと光る技術や製品を披露する。

展示内容はアクチュエーター、センサー、サーボモーター、サーボドライバーなどの要素技術から、ロボットの企画・設計・開発、試作・量産支援、また金属切削加工の受託など、公設試や金融機関ともタッグを組んでモノづくりを支援する。

5日午後は同協議会の協力・主催による、スイスのスマートファクトリー事例紹介や、同ゾーンの出展者によるグローバルビジネスセミナーも開催する。

防災産業展

文化シヤッター

文化シヤッターは増加する集中豪雨による都市型水害対策に備え、建物内部への水の浸入を低減し、〝水の被害〟から財産を守る「止水製品」2製品を出展する。

スチールドアの軽い操作性はそのままに、高い止水性能とコストパフォーマンスに優れた止水ドア「アクアード」、水の浮力に伴い自動で起立するため、無人や夜間の施設でも安心して使用できる「浮力起伏式止水板」の止水実演デモンストレーションを行う。またブース内では、開口部に金具で固定するだけの「ラクセット」、シャッター、フロントに止水シートを貼付し、水の浸入を防ぐ「止めピタ」の取り付け体験ができる。

アールアンドアール

アールアンドアールは「安心と安全のレンタル」を提供する機械レンタル会社。小型機械を中心に建設・産業機器を豊富に取りそろえる。揚重機では業界トップの保有数を誇る。

ブースでは防災製品を展示する。落雷を制御する避雷針「落雷バリア」は雷が落ちないように一定エリアの構造物を保護する。太陽光発電のみで電源供給する「AIカメラ&アルカスソーラー街路灯」はAIカメラで災害の発生や不審な人や物、異常を認識して自動撮影する。凍結防止剤散布機「ZEST」はトラックに搭載し、手元のリモコンで防止剤を散布。夏にはグラウンドやテニスコートなどの防塵対策として注目を集めている。

BX 文化シヤッター “春還” 2019

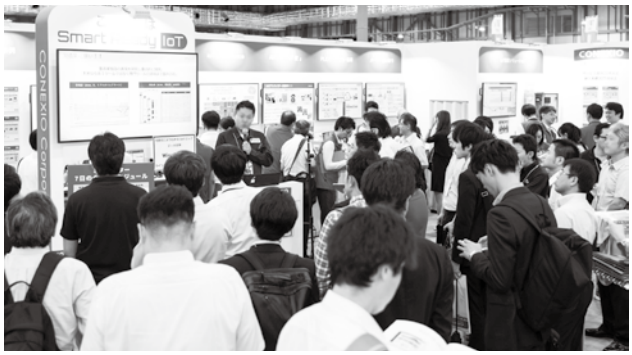
文化シヤッターは、ゲリラ豪雨に備える「止水事業」を推進。
簡単・スピーディに使用できる「止水製品」により、
緊急時には素早い対応が可能です。
技術向上を図りながら、社会課題の解決に挑戦しています。

工事不要で様々な
開口部に取付け可能。
BX 止水板
ラクセット

2019 防災産業展 in 東京に止水製品を出展します。
会期 6月5日（水）～7日（金）　会場 東京ビッグサイト 青海展示棟

文化シヤッターは浦和レッズのプレミアムパートナーです。
文化シヤッター株式会社
〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3　0570-666-670（ナビダイヤル有料）

会場風景



【お問合せ先】
日刊工業新聞社　総合事業局 イベント事業部
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL.03-5644-7221　FAX.03-5641-8321
E-mail：springfair@media.nikkan.co.jp